



海士  
朝長  
元家  
利公  
蘇心  
△  
△  
○



海士

曲出ニ拍子  
位南居



出れりるる月乃く部の西よ  
りうき 天地のひまきめらる久  
かりん天貴も保れんゆつり 房崎の  
大屋の及袖のありはらむらつりか  
母八積別ちのうら房崎と申さる  
うてかきくゆめらるるまきひてか  
か





ついでに舞のしほり海にまゐる  
ついでに舞のしほり海にまゐる

花梅はなはるはる天のしほり  
花梅はなはるはる天のしほり

しづかき入るも花のしほり  
しづかき入るも花のしほり

のしほりも花のしほり  
のしほりも花のしほり

あはれも花のしほり  
あはれも花のしほり

うきも花のしほり  
うきも花のしほり

洗みも花のしほり  
洗みも花のしほり

あはれも花のしほり  
あはれも花のしほり

しづかきも花のしほり  
しづかきも花のしほり

あはれも花のしほり  
あはれも花のしほり

たぬきも花のしほり  
たぬきも花のしほり

あはれも花のしほり  
あはれも花のしほり

あはれも花のしほり  
あはれも花のしほり

あはれも花のしほり  
あはれも花のしほり

不肖のたまたま  
可憐なる  
可憐なる

可憐なる  
可憐なる  
可憐なる

可憐なる  
可憐なる  
可憐なる

可憐なる  
可憐なる  
可憐なる

可憐なる  
可憐なる  
可憐なる

可憐なる  
可憐なる  
可憐なる

可憐なる  
可憐なる  
可憐なる

可憐なる  
可憐なる  
可憐なる



あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに









あしを乳のちからがたんと押さ  
中 劔をさす物きりきり龍の  
あしを死人のさへぢりめらる  
悪龍なり約束の魂さういひ人  
かこつらうむしあきまうさむ  
と海士の海にようむしと  
飛入 かこつらうむしあきまうさむ

かこつらうむしあきまうさむ  
おもしろくなむしあきまうさむ  
きぬとていげは給ふさうさ  
息乃ちあし申す乳のあし  
と御家さしあつらえし  
きりあしとていげは給ふさうさ  
たぬおもしろい梅さし御家さし

東乃さくく。洗うう。う。名より務て。虜  
崎乃入居と申せ。今入行さる。ゆむ  
なま。下老。見しう。法。あ。母。あ。あ。この  
幾。あ。よ。マ。ヨ。ア。リ。ヨ。洗。業。の。跡。と。洗。除。ん。て  
不。審。と。な。さ。し。と。あ。い。く。わ。今。う。か。む。と  
あ。い。は。う。ご。あ。う。契。れ。ま。入。の。御。く  
く。屋。し。う。う。鳴。の。行。や。こ。う。契。う。ら。む

あ。ま。の。あ。う。こ。よ。ま。う。つ。ま。今。ら。き。う。浪。の  
ま。い。よ。み。ま。り。あ。う。よ。う。作。の。ま  
こ。思。候。な。ら。法。さ。あ。う。て。い。程。よ。は。手。跡  
を。え。し。ひ。て。ら。病。も。さ。ら。ゆ。し。ら。あ。て。い  
お。し。母。の。手。跡。と。扱。て。ま。れ。の。魂。に。よ  
え。う。へ。一。十。三。年。骸。と。白。砂。よ。う。つ。む。て  
日。月。の。ま。も。と。よ。眞。路。留。も。さ。か。れ。を

あつた入あつた 般若行なるの、冥冥  
をたよきよむるに、八十一年 梅ハ  
しよよ可きあり。いさよそし決りたるの  
るありあり、ありき手向く。華乃蓮ハ妙  
經多むる言とあり 給みく <sup>上</sup> ちやく  
まく無人聲 <sup>上</sup> ありき秘乃ほよみ、  
ひやく、汝市經よむるきして、五拜（表）

多る天王記筋と、夢ハ八歳の龍女ハ  
南方に、垢世界のよきと、うらめきとく  
精讀し、あつた <sup>上</sup> 深寺、罪福相、遍照  
於十方、微妙淨法身、具相三十二、  
<sup>地</sup> 以八十種好 <sup>上</sup> 用在、嚴法身 <sup>地</sup> 天人可  
戴、作龍神威、恭敬あり、ありのら、  
全、<sup>上</sup> 入、今、汝、經乃、徳用あり、く、天龍

八部人樂非人皆遙見彼龍女成仏  
おろく讃列志渡寺とかり毎奉八講  
別言の勅行仏法教昌の靈地とす  
この女養とすまはるる

別長

曲出一拍子  
佐中強居

是くも暖神も龍寺もあはる僧て  
梅も汝度平治の乱も義朝都を  
あはる中あはる人あはる別長の  
國あはる宿あはる自宮果あはる  
由承あはる別長のあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはる









のこして古塔のまは草ぬさけり秋  
家清弟息秩のやま系れ込道も宮  
北中の方煙一斤の雲とたりま  
空もまも形をたし跡うあられ  
くはく 中 ちりちり 別長のほ家  
初より様毒語つくとまきく 中 申  
付て痛りもきき 年入八日のおま

うとちいもきいさい音の報あこと  
事し銀田殿と信れ種よつと開  
まのま具一たる人四五人らたにい  
義別は親子銀田屋五九も後音と  
頼の思食と明お入舟よるまのま  
うつと清落るくまら也 中 別長の都人  
あうて膝入口と射う粉がうく煖ひ



降るる新巻のまよひしるる  
 情のくはせむかおぬ給りすま  
 是と寂期にたき盛あへくもたせ  
 給へ義別正清あつて致うせ  
 所者様さうれんあもあさ  
 加られしやまおちるる  
 音底の朽骨さへお入る更あま

其持と専れにおぼゆるて骨と方づく  
 こふあまもあ三世十方の仏  
 降るる所も憐れあなるて魂出  
 霊もいさう終りまよひしるる  
 散りつる雲絶ては行をる者あま  
 糸のあまの垣核の伊ひあま  
 宿よゆりくるは傍りあまの音

敷くを物見く清く區るむにて別也  
我ら跡清くおのり吊ひとあせられん  
誠甲の御志あるがふ作物をしよるる  
誰女のあつぬおとくは僧のちかはらん  
御甲と幽き別長くはるの極多きを  
刻甲の心志の貴きまの  
後たぐまはら上美色正まの法正の山  
観音懺法

月アのまきてくさちやうくまれの  
眠アうとこまの鉢ア敷ア時アもつるやほお  
の鐘ア音アしるん渡アの折アくは法アの夜  
持ア感ア涙アもアうの動ア家アか  
其ツ方ツ秘ツの懺ツ法ツやツおツ音ツ在ツ靈ツ山ツのツ法ツ  
幸下へ下在下西下方下の下阿下弥下陀下坐下保下示下現下  
觀下世下音下の下母下利下益下同下一下轉下ま下と下あ下る下外下

戒あるかば頼るやまの妙なる法入  
地 吾人の三三三 楊枝淨水  
於障壇と煙の身とをきくお文の  
瑞風威徳行のあいらるわら  
たつとる市とや那とけりも観音  
懺法をよむる燈の陰翳あるまの  
みきの卯長る敷のこま見ゆるる

まの海に御の母なるまのこころを  
わらわるとは法はさかしく  
まの松様よまのし給よまのこころ  
法にちりまのまのまのねらりて  
拜を力まのまのまの  
まのまのまのまのまのまのまの





きるし寺まきりしと多勢かきり  
叶ひのうかなく甘捕きと終り殊き  
狭まろち二男共侍りしけしは津津  
かまよつりきと都人そとれき  
義別は是るも望同のうつり  
長田を頼まぬを教をたれとこよ  
とちてるをく討し路ありたき

長田のゆひつをなして  
うもぢるあれは汝宿のぢり  
女入つてひくも頼まぬ  
傍つとつり跡はは男は  
村はる世の契りも切つ  
ぞとれ父と教を萬の女  
思ふ父のよまらぬ

親子入らしく清教のしるしは  
御心ごとく清信ひや也卯本は  
清くもよく思ふ名<sup>上皇地</sup>宮敷(寺)の  
功力なりまゝあはれ来喚妻の由り  
はう極く痛りま<sup>上皇地</sup>梓<sup>上皇地</sup>の  
まりの魂を善のよきまを<sup>上皇地</sup>能<sup>上皇地</sup>修<sup>上皇地</sup>道<sup>上皇地</sup>は  
つゝまゝ<sup>上皇地</sup>昔<sup>上皇地</sup>と<sup>上皇地</sup>妻<sup>上皇地</sup>も<sup>上皇地</sup>也<sup>上皇地</sup> 杉<sup>上皇地</sup>修<sup>上皇地</sup>の<sup>上皇地</sup>

苦思といはるる成敵あり行れ<sup>上皇地</sup>世<sup>上皇地</sup>  
うてみ<sup>上皇地</sup>つ<sup>上皇地</sup>様<sup>上皇地</sup>の<sup>上皇地</sup> 源<sup>上皇地</sup>平<sup>上皇地</sup>両<sup>上皇地</sup>家<sup>上皇地</sup> 入<sup>上皇地</sup>和<sup>上皇地</sup>る<sup>上皇地</sup>  
は<sup>上皇地</sup>白<sup>上皇地</sup>雲<sup>上皇地</sup>紅<sup>上皇地</sup>霞<sup>上皇地</sup>の<sup>上皇地</sup>教<sup>上皇地</sup>ま<sup>上皇地</sup>り<sup>上皇地</sup> 我<sup>上皇地</sup>の<sup>上皇地</sup>子<sup>上皇地</sup> 運<sup>上皇地</sup>は<sup>上皇地</sup>極<sup>上皇地</sup>  
め<sup>上皇地</sup>悲<sup>上皇地</sup>し<sup>上皇地</sup>い<sup>上皇地</sup>人<sup>上皇地</sup>崩<sup>上皇地</sup>る<sup>上皇地</sup> 卯<sup>上皇地</sup>本<sup>上皇地</sup> 藤<sup>上皇地</sup>の<sup>上皇地</sup>ら<sup>上皇地</sup>を<sup>上皇地</sup>  
の<sup>上皇地</sup>う<sup>上皇地</sup>子<sup>上皇地</sup>射<sup>上皇地</sup>さ<sup>上皇地</sup>分<sup>上皇地</sup>て<sup>上皇地</sup>馬<sup>上皇地</sup>の<sup>上皇地</sup>あ<sup>上皇地</sup>ら<sup>上皇地</sup>し<sup>上皇地</sup> 射<sup>上皇地</sup>行<sup>上皇地</sup>る<sup>上皇地</sup>  
き<sup>上皇地</sup>の<sup>上皇地</sup>馬<sup>上皇地</sup>の<sup>上皇地</sup>頻<sup>上皇地</sup>り<sup>上皇地</sup>ま<sup>上皇地</sup>あ<sup>上皇地</sup>ら<sup>上皇地</sup>れ<sup>上皇地</sup> 鑑<sup>上皇地</sup>と<sup>上皇地</sup>り<sup>上皇地</sup>て<sup>上皇地</sup> 抄<sup>上皇地</sup>  
う<sup>上皇地</sup>ま<sup>上皇地</sup>し<sup>上皇地</sup>と<sup>上皇地</sup>れ<sup>上皇地</sup> 去<sup>上皇地</sup>程<sup>上皇地</sup>の<sup>上皇地</sup>う<sup>上皇地</sup>ま<sup>上皇地</sup>あ<sup>上皇地</sup>ら<sup>上皇地</sup>れ<sup>上皇地</sup> 一<sup>上皇地</sup>足<sup>上皇地</sup>も<sup>上皇地</sup>

むつねさしと葉替ふまのさし  
づしゆの路もたのしみは  
りりし報共のまは  
定て版一文字も切く其傳は  
子書(白)も成る青好まぬ跡  
らひんもぬかぬとてし給

定家

曲出一拍子ト  
位閑居

山よりいつるか時  
わらふ笑 是れは國方より  
僧うせん秋未初と

思ふ立都まらり作  
衣の別まはし  
きかしのふと



まのわ極よ中用一也 ちかとはある類と

心かしくおるあつ亭とらむらわ柄面

白ゆきくちんてんちちち人のだとち

ちち可あつそ井きひあふれ言あふ

あたつ直あつああつちちちと

中なるぶとく時あむさああ人

とくけいあつとくけいあつちちち

舞のあつあつてあつちちちち

古跡とらひ柄とらひばあちちち

めくして縁の法もあつちちち

根と御あつちちちちちちち

其為よきとらちちちちちち

あきあふる家錦のたつあつち

可くもあつ時雨とらち宿あつち

用一



世にあらばりし女もあやう家へ行端  
夕可ぬあづりまよかぬぬ涙の寝も離  
しうれとなくぢきこの増るあや村の  
露の宿ももつさくさかあま  
なうまきさく  
宿よ墓前へいまりる清まるうら  
引れそ出家の望もてら預らまら

もあうらうらあゆくはるる塔の  
るるまよまはるる塔の  
物いんあまひまらむ  
見くさくさくさくさく  
そいおひの親まの清墓うてん  
うらうらあや家もやる  
まもあまといらむ換なる謂うて

清おりのりく 式子の親まゝあり  
賀後乃女のまは侍りおらるゝ福かく  
わが力にまはらうゝ家錦世をく  
のは契り侍りしひまは式子の親と程  
たぐさゝくゆらうゝ家人の執心  
高とありと御墓づらひまゝひな花  
らぬゝ静きやしひまは邪婦の家執

と清経をうかひあひおろく様とわ  
しあゝせ作とし 赤まゝあねと古の  
ぶら奥のまひとあへく浦ふ道まゝ  
露のまひとあへく 赤まゝあねと古の  
猪と絶おろしとあへく 赤まゝあねと古の  
るらよりらなる心秋花をまゝ  
ほよむらゝあゝあゝとあへく 赤まゝあねと古の



中と成ぐ 下廿二 思ひなうたは  
心うづもくもなむいッヤ名 ありれまきも  
らう 霜よ朽果て世もあつらひ  
我神の涙の才の昔うら密やとこ  
うきき 賀茂の女院うらもゆりま  
なよ才あわも祓やまのもあつた  
べの舞うれあま出まきう楽しづくじ

かよれとあて世うづもあつた  
名のもきて金前ののうえい大方れ  
らううま日ろえ雲のかりん路絶  
果てじ女の姿らめえあひうつら  
諸まらよ 上母 ちも歎くたらふも  
道やちう君うらまのむのむと  
ましのむなうらうら執事らあむと

才多成く此跡ヌまつとなく都も  
中て首あてぬ入トるねまトらト判トの  
髪もしとほりト露トまトほト清トるト  
家執とたトけトやトありトるト  
固トるトまトまトもト狂トなくト異ト眼トるト中ト  
全清ト才ト神ト也ト誰トもトあトまトのト  
くそトあトらトしトらト霜トよト朽トりトるトりトらトるト

幼トうトたトるトねトらトるトなトらトるト草ト  
埃ト乃トあトらトるトぎトよトいトあトまトらトるトかトらトるト会ト  
つトまトらトるト入トるト秋トらトるト式ト子ト肉ト親ト王ト  
是トはトいトふトらトしトまトれトまトまトらトるトのト染トかトまトらトるト  
乃ト石ト子ト跡トのト秋トたトらトるトあトまトらトるトひトらトるト  
高トくトらトるトまトまトらトるトまトまトらトるトまトまトらトるトみトえト  
てトまトまトらトるトまトまトらトるトまトまトらトるトまトまトらトるトみトえト

陰アまツくニ松ニ河ニさニくニおアとニりニたニるニ陰ニ  
あニらニ露の牙ニと思ひ入るのおのをとくま  
吊梅縁ハらる縁ヤくニ 窓ノまニ又ニ圖ニ  
乃ウつクのノづクのノ日ももたまらしまるノ  
ほろ音ノ音ハ松河のノ月ノ詞をからしめるノ  
翠長紅周子松とあくニ 成ル成ル  
情ノ末ニ 花も紅も散まり明ける

外ノ雨と ちともも入らのもももともとも  
現もままらうももちよままりの身と成る  
て跡と跡らる行中の草の陰と反  
津ノ宿をあらてるとらつまあらす家  
かつつと是らららららもも中候 意痛りの  
清方様やああららららももや佛平小説ニ  
如一味雨隨ふる所變りの同 片断



<sup>上</sup>有<sup>上</sup>籍<sup>上</sup>り<sup>上</sup>又<sup>上</sup>此<sup>上</sup>報<sup>上</sup>恩<sup>上</sup>よ<sup>上</sup>い<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>る<sup>上</sup>が<sup>上</sup>り<sup>上</sup>し  
<sup>上</sup>雲<sup>上</sup>井<sup>上</sup>の<sup>上</sup>た<sup>上</sup>り<sup>上</sup>神<sup>上</sup>者<sup>上</sup>と<sup>上</sup>い<sup>上</sup>ふ<sup>上</sup>は<sup>上</sup>の<sup>上</sup>あ<sup>上</sup>ら  
<sup>上</sup>其<sup>上</sup>舞<sup>上</sup>姫<sup>上</sup>の<sup>上</sup>小<sup>上</sup>忌<sup>上</sup>う<sup>上</sup>ろ<sup>上</sup>を<sup>上</sup> <sup>上</sup>か<sup>上</sup>き<sup>上</sup>の<sup>上</sup>舞<sup>上</sup>ひ  
<sup>上</sup>か<sup>上</sup>の<sup>上</sup>横<sup>上</sup>や<sup>上</sup>か <sup>上</sup>あ<sup>上</sup>も<sup>上</sup>な<sup>上</sup>の<sup>上</sup>舞<sup>上</sup>の<sup>上</sup>名<sup>上</sup>横<sup>上</sup>や<sup>上</sup>か  
<sup>上</sup>た<sup>上</sup>も<sup>上</sup>あ<sup>上</sup>ち<sup>上</sup>あ<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>の<sup>上</sup>横<sup>上</sup>や<sup>上</sup>か <sup>上</sup>け<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら  
<sup>上</sup>此<sup>上</sup>別<sup>上</sup>当 <sup>上</sup>月<sup>上</sup>の<sup>上</sup>鳥<sup>上</sup>を<sup>上</sup>せ<sup>上</sup>し <sup>上</sup>雲<sup>上</sup>う<sup>上</sup>か<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ふ  
<sup>上</sup>う<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ま<sup>上</sup>の<sup>上</sup>鳥<sup>上</sup>を<sup>上</sup>せ<sup>上</sup>し <sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>の<sup>上</sup>鳥<sup>上</sup>を<sup>上</sup>せ<sup>上</sup>し  
<sup>上</sup>露<sup>上</sup>と<sup>上</sup>消<sup>上</sup>了<sup>上</sup>も<sup>上</sup>つ<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>も<sup>上</sup>ち<sup>上</sup>鳥<sup>上</sup>の<sup>上</sup>鳥<sup>上</sup>城  
<sup>上</sup>表<sup>上</sup>神<sup>上</sup>楽<sup>上</sup>う<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>も<sup>上</sup>ち<sup>上</sup>鳥<sup>上</sup>の<sup>上</sup>鳥<sup>上</sup>城  
<sup>上</sup>真<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>の<sup>上</sup>鳥<sup>上</sup>を<sup>上</sup>せ<sup>上</sup>し  
<sup>上</sup>城<sup>上</sup>の<sup>上</sup>鳥<sup>上</sup>を<sup>上</sup>せ<sup>上</sup>し  
<sup>上</sup>か<sup>上</sup>つ<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>の<sup>上</sup>鳥<sup>上</sup>を<sup>上</sup>せ<sup>上</sup>し  
<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>の<sup>上</sup>鳥<sup>上</sup>を<sup>上</sup>せ<sup>上</sup>し  
<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>の<sup>上</sup>鳥<sup>上</sup>を<sup>上</sup>せ<sup>上</sup>し

つらこま

曲出一ノ程歌  
佐閑居

第ニ  
ヨハ  
心つらこま  
日るもくちなり  
見ハ九列日向の國ハ

若めくハ我未伊勢大  
神宮子とありハ

船よあふも  
船よまも  
波の浪路  
浦は子身ハ

「一」  
昔はて候の寝屋をさくぬけうへくの  
とあるまふめさるへく備のこらひなるま  
きはりくはる人種も是くつちや信濃の國  
ありてしらの浦はあてし人智入く相まら  
可くはる事のむと申の事候事候  
てはまの屋敷もあしめりうそし身衆  
あしめり候事候と候事候  
久由と備

あしめり候事候と候事候  
もはり候事候と候事候  
職とらひ候事候と候事候  
ま殺する家子もはる言おの命を教  
まはり候事候と候事候  
おとら思入候事候と候事候  
くはり候事候と候事候  
射殿子事候と候事候

ふもてふりてふもくんと伊勢の

國よみくも洗浦といふなり

さしんじり河をいづ漕の浦と申す

あなつらありまの浦めくんと

古きころより海ありまのり

細し度重のれん頭きりまわが根

讀きし浦もぬきも甚たき

高  
つらやごの根人かあり和教ある

なごころのきりてくまは六條のり

下  
海ももありなる浦より細きなり

ある頭きりましが根は強なり

人あはれらばとせしもの海士

みももてしりまはるる

ひもまたちちる可白師の



ちんかむい ちぬりたぐみのタキウ  
ちんちくく ちすあむのち  
ちうおぬの 音もなるか  
おろちもあまらして替りまらぬ  
秘吸のちの浦何ちも後よのせの濱  
換のちもつうてまらぬまらぬ  
今ち絶ちたるが月かこしくぬるぬる  
かひまこぬらるるまらぬ衣敷ぬらる  
くぬらるまらぬまらぬまらぬ  
ちんちの浦とちんちの浦とちんちの浦と  
て洗うとちんちの浦とちんちの浦と  
官邸を洗うと洗うと洗うと洗うと  
つちもぬらるるちんちの浦とちんちの浦と  
海邊のちんちの浦とちんちの浦と

ふらふらと寝るをいふはさうさうと  
汗のよもぎをいふはさうさうと  
表のあつさをいふはさうさうと  
ゆふのあつさをいふはさうさうと  
習ひのあつさをいふはさうさうと  
ひくちのあつさをいふはさうさうと  
重めれのあつさをいふはさうさうと

可いものいふはさうさうと  
びんがまたよせといふはさうさうと  
各々の海を面重といふはさうさうと  
あつた真陰のあつさをいふはさうさうと  
あつたあつさをいふはさうさうと  
あつたあつさをいふはさうさうと  
あつたあつさをいふはさうさうと  
あつたあつさをいふはさうさうと  
あつたあつさをいふはさうさうと  
あつたあつさをいふはさうさうと







雲連入の陣乃秋子...  
 了まのつげ息...  
 きあつ雲霧...  
 除乃責も度重なる...  
 罪科をたとも給へや...  
 たまへや様...  
 波乃底よ入よ...

曲出本拍子  
 位 輕強 五

甲河

是乃遠國か入者...  
 福の都よ...  
 信く...  
 存ん...  
 ありて...  
 終ぬ...

へる白の女中様ある様  
 事<sup>レ</sup>あつし<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>

萬<sup>レ</sup>事<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>目<sup>レ</sup>前<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>境<sup>レ</sup>界<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>柳<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>

みる<sup>レ</sup>花<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>井<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>面白<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>

動<sup>レ</sup>交<sup>レ</sup>わ<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>面白<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>音<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>洗<sup>レ</sup>

橋<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>橋<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>

乞<sup>レ</sup>乞<sup>レ</sup>乞<sup>レ</sup>所<sup>レ</sup>自<sup>レ</sup>然<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>法<sup>レ</sup>界<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>功<sup>レ</sup>

か<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>給<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>給<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>

お<sup>レ</sup>移<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>東<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>西<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>

さ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>御<sup>レ</sup>里<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>父<sup>レ</sup>母<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>

き<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>清<sup>レ</sup>出<sup>レ</sup>家<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>

か<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>家<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>

指<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>家<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>

せ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>

上  
[キセ] 智と推ても

東の 橋を 舟に 乗せ 舟に 乗せ

舟に 乗せ 舟に 乗せ 舟に 乗せ

舟に 乗せ 舟に 乗せ 舟に 乗せ

舟に 乗せ 舟に 乗せ 舟に 乗せ

舟に 乗せ 舟に 乗せ 舟に 乗せ

上

舟に 乗せ 舟に 乗せ 舟に 乗せ

舟に 乗せ 舟に 乗せ 舟に 乗せ

舟に 乗せ 舟に 乗せ 舟に 乗せ

舟に 乗せ 舟に 乗せ 舟に 乗せ

舟に 乗せ 舟に 乗せ 舟に 乗せ

舟に 乗せ 舟に 乗せ 舟に 乗せ

舟に 乗せ 舟に 乗せ 舟に 乗せ



下  
鉄よりまじりてあつちの心可の仏法  
趣の箇を縁とす道とくまうた  
まの跡とや 但正像とてかた  
業法よすを受てうりや入ま  
多わもよきと結すの部の清  
清 月まも起りあまの毒念也  
罪障の山より降りて煩悩のくも

下  
あつちして信の光情極く 生死の  
海よりあつちの毒の波をくして  
美如の月宿の 生死のくもを  
て。昔よりくまの受てかたの海より  
随つて圓いものもくまの随つて圓の  
まの宿の極もあつちの生死の麻  
まの宿の極もあつちの生死の麻

夢<sup>下</sup>もやい<sup>下</sup>し<sup>下</sup>る<sup>下</sup>や<sup>下</sup>き<sup>下</sup>し<sup>下</sup>き<sup>下</sup>ら  
か<sup>上</sup>う<sup>上</sup>し<sup>上</sup>し<sup>上</sup>と<sup>上</sup>し<sup>上</sup>と<sup>上</sup>し<sup>上</sup>の<sup>上</sup>ほ<sup>上</sup>り<sup>上</sup>煙<sup>上</sup>と  
ほ<sup>上</sup>る<sup>上</sup>は<sup>上</sup>其<sup>上</sup>法<sup>上</sup>と<sup>上</sup>し<sup>上</sup>つ<sup>上</sup>も<sup>上</sup>な<sup>上</sup>あ<sup>上</sup>と  
ま<sup>上</sup>し<sup>上</sup>と<sup>上</sup>し<sup>上</sup>の<sup>上</sup>又<sup>上</sup>恩<sup>上</sup>愛<sup>上</sup>の<sup>上</sup>中<sup>上</sup>に<sup>上</sup>あ<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>く  
ま<sup>上</sup>つ<sup>上</sup>と<sup>上</sup>勝<sup>上</sup>と<sup>上</sup>し<sup>上</sup>と<sup>上</sup>視<sup>上</sup>と<sup>上</sup>し<sup>上</sup>と<sup>上</sup>か<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>し<sup>上</sup>と<sup>上</sup>云  
ふ<sup>上</sup>あ<sup>上</sup>れ<sup>上</sup>き<sup>上</sup>南<sup>上</sup>の<sup>上</sup>琴<sup>上</sup>の<sup>上</sup>波<sup>上</sup>の<sup>上</sup>か<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ぬ  
と<sup>上</sup>及<sup>上</sup>慈<sup>上</sup>教<sup>上</sup>の<sup>上</sup>焰<sup>上</sup>と<sup>上</sup>し<sup>上</sup>と<sup>上</sup>紅<sup>上</sup>蓮<sup>上</sup>と<sup>上</sup>云<sup>上</sup>

お<sup>上</sup>蓮<sup>上</sup>の<sup>上</sup>氷<sup>上</sup>と<sup>上</sup>の<sup>上</sup>終<sup>上</sup>よ<sup>上</sup>し<sup>上</sup>の<sup>上</sup>事<sup>上</sup>の<sup>上</sup>終<sup>上</sup>と<sup>上</sup>云<sup>上</sup>  
我<sup>上</sup>少<sup>上</sup>の<sup>上</sup>ま<sup>上</sup>の<sup>上</sup>志<sup>上</sup>と<sup>上</sup>し<sup>上</sup>眼<sup>上</sup>と<sup>上</sup>の<sup>上</sup>悲<sup>上</sup>悲<sup>上</sup>の<sup>上</sup>涙<sup>上</sup>り  
う<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ほ<sup>上</sup>も<sup>上</sup>を<sup>上</sup>焦<sup>上</sup>熱<sup>上</sup>と<sup>上</sup>の<sup>上</sup>焰<sup>上</sup>と<sup>上</sup>の<sup>上</sup>終<sup>上</sup>よ<sup>上</sup>  
志<sup>上</sup>の<sup>上</sup>心<sup>上</sup>の<sup>上</sup>あ<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>か<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ぬ<sup>上</sup>心<sup>上</sup>の<sup>上</sup>持<sup>上</sup>て<sup>上</sup>  
教<sup>上</sup>の<sup>上</sup>倫<sup>上</sup>盜<sup>上</sup>邪<sup>上</sup>淫<sup>上</sup>の<sup>上</sup>身<sup>上</sup>と<sup>上</sup>し<sup>上</sup>と<sup>上</sup>ひ<sup>上</sup>く<sup>上</sup>作<sup>上</sup>る<sup>上</sup>罪<sup>上</sup>也<sup>上</sup>  
妄<sup>上</sup>語<sup>上</sup>矯<sup>上</sup>偽<sup>上</sup>の<sup>上</sup>口<sup>上</sup>と<sup>上</sup>の<sup>上</sup>舌<sup>上</sup>の<sup>上</sup>つ<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>つ<sup>上</sup>て<sup>上</sup>つ<sup>上</sup>く<sup>上</sup>罪<sup>上</sup>  
なり<sup>上</sup>貪<sup>上</sup>欲<sup>上</sup>嗔<sup>上</sup>害<sup>上</sup>の<sup>上</sup>心<sup>上</sup>と<sup>上</sup>の<sup>上</sup>終<sup>上</sup>と<sup>上</sup>云<sup>上</sup>



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

此本者觀世龙近大夫  
 以章句寫之并當流之  
 加秘密悉令改正者也

于時延寶五丁巳年孟夏言辰  
 二条通御幸町西入町

山本源太郎開校



